

## 令和5年度第1回荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

- 【日 時】 令和5年7月5日（水） 14:00～16:00
- 【場 所】 荒尾市役所 11号会議室
- 【出席委員】 7ページを参照
- 【事務局】 石川総務部長、田川地域振興部長、片山市民環境部長、橋本保健福祉部長、末永建設農水部長、中山総合政策課長、林田政策推進室長、丸本、伊藤

記録者：総合政策課 丸本

## 1. 開会

中山課長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

## 2. 新委員紹介

2名の委員が交代となり、委嘱状の交付を行った。

## 3. 会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

今回、地方創生の深化型となるデジタル田園都市国家構想総合戦略を受けて改訂することになるが、国の総合戦略は、今後の荒尾市の方向性を探る上で大きな指針となると考える。委員の皆様においては、限られた時間ではあるが、荒尾市のために忌憚のないご意見をいただきたい。

## 4. 諮問

浅田市長から、荒井会長及び高木副会長に対し、諮問を行った。

## 5. 市長あいさつ

浅田市長があいさつを行った。

委員の皆様には日頃から本市のまちづくりのマスタープランとなる総合計画の策定や進捗管理についてご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

現在の総合計画は計画期間が令和7年度までと期間途中ではあるが、国の総合戦略を踏まえて地方でも改訂が求められている。分かりやすく言えば、デジタルを活かした地方創生を、新たな視点で考えることだと認識している。デジタルの活用については、本市の場合、おもやいタクシー等で既に取り組んでいるところであり、このようにデジタルの力を活用して市民の暮らしを快適にしていくまちづくりに励んでいる。しかしながら、この改訂を機に、デジタルの活用で更に市民に還元できる施策を考えるチャンスだと捉えている。

緑ヶ丘地区と荒尾駅周辺の中心拠点を築いていき、雇用の場を創っていくこと、新病院建設などにより市民の命を守っていくこと、将来を担う子どもたちのために子育て支援や教育など幅広く取り組むことで子育てしやすいまちづくりに取り組んでいる。一方で、特に少子化の進展が課題であり、本市でも4年程前と比較して急激に減少が進んでいる。市の将来を考えたときに大きな問題だと捉えている。庁内的にも、少子化対策については全庁横断的なプロジェクトチームを設置し、市民の意見などを伺いながら対策を検討していくこととしているが、この少子化対策についても委員の皆様からご意見・ご提案いただけると有難い。

## 6. 議事

荒尾市総合計画条例第8条第2項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

### (1) 第6次荒尾市総合計画の改訂の方向性について

林田室長が、資料1に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

#### 《主な意見等》

- 新たに少子化対策部会や座談会を設置されたことは良いことだと思う。機会があれば意見を出していきたい。  
また、デジタルについて、以前、ゆめタウンシティモールでスマホの使い方の講座を開いてほしいと要望したところ、早速開いていただいた。若年者が高齢者に使い方を教えていくというシステムを作り、他の地域でも広めていっていただきたい。  
→少子化問題については、家事や育児を男性がいかに協力するかだと思う。夫婦一体となってやる必要がある。  
→座談会やヒアリングの中で、様々な方に困りごと等を聴いていきたい。スマホ教室については、事業者の協力を得て実施している。今後も継続していく予定である。(事務局)
  
- 今は社会全体として、結婚したくない、子どもは必要ない、自分の人生を楽しく終わりたいという風潮がある気がする。国としてもそうした風潮を変えていくことが必要ではないかと考える。地方でも、少子化により市がなくなるんだという危機感を訴えていき、併せて具体的な対策を検討していくことが必要である。

### (2) 令和4年度成果検証結果及び改善方針(案)について

丸本が、資料2に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

#### 《主な意見等》

- まちづくりアンケートの取り方についてはどのようになっているのか。  
→アンケートは例年実施しているもので、対象者は無作為に1,000名抽出するほか、市公式LINE登録者にも調査している。設問の方法については、まず「荒尾市で子育てをしたいか」を問い、「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」から回答してもらい、その中で「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答した方に対し、どのようなことが要因かを問う。具体的には、教育環境が不十分、子育て支援サービスが不十分など、全部で8個程度の選択肢があり、その中で選んでいただくようになっている。(事務局)  
→教育環境と一口に言っても、教育環境を構成する要素がそれぞれある。そのような具体的な質問をすることで、どこを改善したらいいか見えてくる。そのようなアンケートの取り方が良いのではない

か。

→例年実施しているアンケートの質問内容を変更することはなかなか難しいと思うが、複数回答をつくる必要があると思われるため、今後事務局で検討いただきたい。

- 住宅・不動産関係で人員が不足している。今、TSMCで人員を募集しており、給料が高いことを理由に、20代から30代の若い作業員はそちらに出て行ってしまった。若年層が荒尾市から流出している原因が分かるデータはあるか。

→毎月、県内の推計人口が分かるデータがあり、昨年度のデータからは、ここ数年と比較すると転出が抑えられていると見ていた。しかしながら、昨今はTSMC等もある中で、どのように働く場を確保するかもあるが、職場は市外で住むところを荒尾市にさせていただく暮らし方もあると思われるため、暮らしやすさのPRも行っていきたいと考えている。(事務局)

→TSMCの進出で、人が仕事を求めて流出するのは一過性だと思うが、それを引き止める力をつけることが行政の大きな仕事だと考える。

- これまでは、「高齢者を支える社会づくり」が推進されていたが、これからは高齢者が増加していくため、「高齢者が支える社会づくり」も良いのではないか。市としても、高齢者をどう活かすかという取組を検討いただきたい。

また、障がい者の社会参画に関する取組はあったのか。例えば、スポーツ等において、健常者と障がい者が一緒に行うことが、障がい者への理解促進につながると考える。

→本市の高齢化率は約36%で、これからもまだ上がっていく見込みである。定年退職後も仕事をされる方や地域活動をされる方もいらっしゃるため、ぜひ活かしていきたい。障がい者の社会参画に関する取組については、福祉課において障がい者の外出支援を行っているところではあるが、健常者との交流等については、もっと検討する余地があるため、引き続き取組を考えていきたい。(事務局)

→労働不足を補うためにも、高齢者が社会を支える仕組みづくりや取組が必要となってくる。

- 弟子に技術を教えるには、終業後1時間程度のわずかな時間でも欲しいところだが、長時間労働になるためそれはできない。休むと給料も安くなるため、働く本人としても困る。このような状況を改善できるような、働き方改革の名案はないか。

→非常に難しい問題である。昨今の働き方は、働き方改革によって大きく変わってきているが、働き方改革は長時間労働を是正することが目的で、少子化対策の観点から言うと、仕事と家庭のバランスを取るためには必要だと感じる。(事務局)

→また、長時間労働による過労死を防ぐためにも、従業員を雇っている事業所は、適正に労働基準法を遵守しなければならない。

→実情と労働基準法との兼ね合いが難しいところである。  
→新型コロナウイルス感染症の影響で、夜間の仕事が少なくなり、辞めてしまった乗務員もいる中で、どのように市民の移動手段を確保していくか検討している最中である。少人数体制でも、スムーズにお客を受け入れられるようなシステムを使いながら運営しているところである。

- 現在、民生委員をしているが、私が暮らす行政区には一人暮らしの高齢者が53名いる。中にはバスを利用されている方もおられるが、バス停が遠く本数も少ないため、多くの方は、デイサービスに迎えに来てもらい、帰りにスーパー等に降ろしてもらって、そこからおもやいタクシーで帰る方が多いようである。なかなか公共交通を利用していただくことは難しいのが実情である。企業と協力し、食料品等の巡回販売のようなものがないか考える。
- 子どもの数が減っている状況に危機感を感じている。若い女性の方々が、荒尾市で仕事をし、結婚し、子どもを産み育てるようなまちづくりに取り組んでいただきたい。

### (3) デジタル田園都市国家構想交付金事業の効果検証結果について

林田室長が、資料3に基づき説明を行った。特に質疑等はなく、最後に荒井会長から総括がなされた。

#### 《総括》

荒井会長 総合計画の改訂については、市長から諮問を受けたため、今後審議していく。  
成果検証においては、KPIが達成できていないところに着目し、次の一手をどうするか、先を見据えた政策を行っていくことが重要である。

## 7. その他

中山課長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、今年度の会議については、10月頃に開催する予定であり、改訂版の素案についてご審議いただきたい旨を報告した。

## 8. 閉会

中山課長が、閉会を宣言した。

令和5年度 荒尾市総合計画審議会 出席者名簿

	分野	団体名	役職名	氏名	備考
1	学識経験者	熊本学園大学	元経済学部教授	荒井 勝彦	
2		九州看護福祉大学	社会福祉学科特任准教授	李 玄玉	欠席
3		有明工業高等専門学校	校長	八木 雅夫	
4	経済	荒尾商工会議所	会頭	高木 洋一	
5		一般社団法人荒尾市観光協会	会長	山代 秀徳	
6		玉名農業協同組合荒尾市総合支所	担当理事	隈 学	
7		荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川 幸一	
8	金融	肥後銀行荒尾支店	支店長	前田 裕規	欠席
9	労働団体	連合熊本肥後有明地域協議会	議長	馬場 清治	
10	雇用	玉名公共職業安定所	所長	野島 学(新)	
11	職業訓練	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 熊本支部熊本職業能力開発促進センター	荒尾訓練センター長	峯 恭彦	
12	教育	荒尾市教育委員会	教育長	浦部 眞	
13	医療	荒尾市三師会(荒尾市医師会)	会長	伊藤 隆康	欠席
14	スポーツ	荒尾市体育協会	会長	山口 賢一	
15	文化	荒尾市文化協会	会長	井上 泰秋	
16	住宅	熊本県宅地建物取引業協会荒尾支部	支部長	下田 次郎	
17	結婚	有明広域行政事務組合 (荒尾・玉名地域結婚サポートセンター)	総務課長	城戸 正令	欠席
18	福祉	荒尾市社会福祉協議会	会長	丸山 秀人	
19	市民団体	荒尾市子ども会連合会	会長	橋本 誠剛	
20		荒尾市老人クラブ連合会	副会長	辛島 正春	
21		女性ネットワーク荒尾	代表者会代表	坂田 尚子	
22	住民代表	荒尾市行政協力会	会計	林 一夫	欠席
23		荒尾市地区協議会会長会	会長	河部 啓宣	欠席
24		公募委員	—	陣内 透	
25		公募委員	—	甲木 喜一郎	
26	熊本県	県北広域本部玉名地域振興局	局長	川元 敦司(新)	
27	行政	荒尾市	副市長	田上 稔	

※敬称略、順不同